お盆に思う～私に届けられた「いのち」

「アンパンマンのマーチ」（作詞:やなせたかし）に興味深いことばがあります。

「なんのために生まれ　なにをして生きるのか　こたえられないなんて
そんなのはいやだ!
なにが君のしあわせ　なにをしてよろこぶ　わからないままおわる
そんなのはいやだ!
時ははやくすぎる　光る星は消える　だから君はいくんだ　ほほえんで」
（一部分抄出）

私たちは、お金、健康、仕事、家族、趣味、能力、あるいは権力などを、普段大切なものだと信じて、安心しようとします。しかし、これらは皆、必ず間違いなく、壊れ失われるものです。その時、人間が、空を見上げ、大地を踏みしめ、涙をこらえようとするとき湧き上がってくるこの「なんのために生まれ　なにをして生きるのか」という根源的な問いかけを仏教では、本願といいます。
「私は一体、何のために生まれ、そして、どう死んでいくのだろうか」
と、私にとって本当に大切なものは何かと問うところに、向こうからかけられていた願いが立ち現れます。

あたたかいご指導をいただいた、私の高校の恩師がお住まいの長野県松本市にある神宮寺（じんぐうじ）では、「お葬式の見本市」を行ったことがあるそうです。
葬儀が時間を追って分かるように使われる祭壇や仏具などが展示され、また三日間かけた模擬葬儀のワークショップが開かれました。
ボランティアの一人のお爺さんがお棺に入って、棺の蓋を閉じてしばらく説明をしたりしました。
そうして葬式の手順が一つひとつ、仏教ではどのような意味があるのかを説明していく中で会場に深い感動が生まれる場面もあったといいます。当日、祭壇の遺影には、神宮寺住職のご母堂様の写真が使われました。九十一歳になるお元気なお方です。模擬葬儀の最後に、本人の「別れの言葉」が肉声で流れました。

「長い間、みなさんありがとうございました。（略）。
お母さん（神宮寺住職の連れ合い）にはたった一人のお嫁さんとして、わがままな私の面倒をみてもらいました。お礼のいいようもありません。
孫も、たった二人、それが可愛くて、可愛くて……。
別れはつらいけれど、いくときが来たようだから、思い残すことは何もありません。
ありがとう、ありがとう、皆さん、さようなら」

集まった人の中には模擬葬儀だと知りながら、涙を流す人もいました。
（上田紀行『がんばれ仏教』より抄出）

私の葬儀はどうなるのか、と自分の死に方を考えることは、実は今の私の生き方を考えることです。

子どもらに向けて、「大人になったら何になりたい?」「将来、何になる?」と問う私たちですが、同じ質問をこの私に向けて尋ねられたらどう答えますか?
「もうアトはわずかしかない。死んでいくだけだ。」
という将来性のない答えでは若い人への確かな姿にはならないでしょう。
こうしてせっかく親鸞聖人の教え、お釈迦さまの教えに生きるようになった私は、

「長い時間をかけて今回人間に生まれたいのちは、やがて終わるとき、肉体はこの世に残していくけれど、念仏の利益のままに浄土に生まれて仏さまに成らせて頂くいのちを恵まれたよ。仏さまになってみんなを見まもり、導くいのちになるんだよ。」
「よければ、これから一緒にお寺にいっておいわれを聞こうね」

と答えられるようになりたいものです。

死をこえる生き方を「生死出づべき道（しょうじい）」、「後世（ごせ）をいのる」、「後生（ごしょう）の一大事（いちだいじ）」と言いますが、死んでからのことではありませんね。
今、この生活の中で死を通して大切なことを学ぶのが仏教です。すると本当でないことが見えてきます。そこに、どうでもよいことを追いかける私が、本当の生き方に気づかされるのです。

「生きていくということ」　永六輔作詞

生きているということは　　誰かに借りをつくること
生きていくということは　　その借りを返してゆくこと

誰かに借りたら誰かに返そう　誰かにそうして貰ったように
誰かにそうしてあげよう

生きていくということは　　誰かと手をつなぐこと
つないだ手のぬくもりを　　忘れないでいること

めぐり逢い愛しあい　やがて別れの日　その時に悔やまないように
今日を明日を生きよう

人は一人では生きていけない　誰も一人では歩いていけない
（一部分抄出）

永六輔さんは浅草にある浄土真宗のお寺の息子さんです。そのお父さんである住職･永忠順師のことばをもとにして作られたのが、この「生きていくということ」という歌の詩です。
よろしければ、声に出して詠（よ）んでみてください。声に出すといのちに響くものがありますね。
夏は、お盆の仏事を迎える季節です。手を合わせ、み仏さまの願いと向き合う時、長い長い、「いのち」のバトンタッチの上で、今私に届けられた「いのち」を見つめてみました。

合掌
万行寺第十八世住職　釋靜芳（本多 靜芳）

※ご縁のあったあなた！　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか?　お待ちしてます（会費はいずれも資料･茶菓代として千円です）。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。